21 de Dezembro de 1917 No. 17

# Noticias do Brazil

大正六年十二月廿一日　金曜日　第拾七號

# 伯剌西爾日報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado No, 39
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ..... 10$000
,, Semestre ..... 5$500
, Mez ..... 1$000
,, Semana ..... $800

## 土地と生活の關係（下）

土地の選定に就ては經濟學上から之を見て、生産者に取り勤勞の最も少なくして、利益の最も多き場所を選ぶの必要上、地味の肥瘠を先づ第一に考究することは當然であるが、併し單に地味の肥瘠のみを吟味して、交通の便否、市場の遠近、開墾の難易、耕作物の適否、氣候及び水利の良不良等の研究を疎外したる者は、未だ以て生産上有利の土地と斷ずることは可能ぬ、而かも更に此の土地を生活上意義あらしむるには、尙ほ周圍の事情、衛生の情態、子女敎育の前途等をも其さに考慮討究した上でなければ、完全なものとは言ひ得ないのである。

伯剌西爾に於ける土地の選定は、母國の夫れとは大に其の趣きを異にして、土地の肥瘠如何の如きは、何人も少しく思慮を費さば之を見分くること容易なるも、其れよりは却て、土地の位置、市場との關係、生活上の幸不幸等を見定むることは困難である、故に私共にして土地を購はんとする場合には、前者に注意を拂ふと同時に、後者に最も深き考慮を費すことを怠つてはならぬのである、頃者私は、州副統領ア、カンヂド、ロドリゲス氏に面會の節、日本移民に對する氏の意見を敲けるに、氏はいと親切に「日本人と云はず、歐羅巴人と云はず移民として伯剌西爾に來る者は、先づ善良なる人として勞働に服すと共に、耕地に於て十分なる經驗と資力とを蓄へ、確かに獨立して事業を經營し得るの見込立つまでは動かないのが得策である、若し然らずして輕擧盲動するに於ては、啻に失敗者として損失を招くのみならず、失望のあまり悲境に陷ることなしとせぬ、伯國は見渡す限り未開の沃野で富源は到る處に横つて居る、靜かに實力を養い其の間得たる處の經驗を用ゐて事に當るも決して遲しとせぬ、否な眞の成効は寧ろ晩成にあるのである、何も性急に間道を走つて人生の幸福を傷ふ樣な危險を侵す必要はない、どうか此處の道理を日本人に克く徹底する樣に說いて貰いたい」と述べられたが、是れ寔に至言で私共の常に服膺して忘るべからざる大切な訓誡である。

熟ら〳〵顧ふに、私共が故山を離れて遠く此の地の人となつた動機は之を詮議するまでもなく人各々の境遇に依つて同一ではないが、併し概括して之を云へば生活の安全を得んが爲めに、生活難の日本より生活易の伯國に移住したと云ふこと丈は共通の理由であると思ふ、然らば私共は何も急せる必要もなく、悶へる必要もない、唯學理の敎ゆる處、先輩の窮知することは出來なかつた十一月八日夕方着するだらうとの噂が愈々當日になつて早まり午後三時フエリー着との報を知り得たのは正午過ぎだつた之れより先き當地よりは埴原總領事、大山領事、藤井官補、土井東洋汽船支店長、牛島在日會長、神崎在日書記長の諸氏大使一行着桑時間の報に接し

△一行搭乘の　サンタフイ線の灣東鐵道會社のスタント氏隨行し來た一行及び出迎の人々サンタフイの聯絡渡船に移乘して雜談に移る三ケ月以前に始めて米國の本土に接し桑港灣の光景に舊情をしのぶに間もなく午後三時四十分フエリに着した

### ▲市長代理出迎

——マクナブ氏も見ゆ——

之れより先きフエリには石井大使一行午後三時着との報を得て出迎の人々サンタフイ渡しにて俟つ秘密の出迎へとて日米の名士も極少數であつた桑港市よりは市長都合にて出迎難氏にも逢へば又ヒユス氏にも亦目にも砂糖の如きは二つ以上は出さず又きにつきレヂー秘書役前一行歡迎委員長のマクナブ氏其他フエアモントホテル副支配人新聞記者等にて日本人側は富田副領事及び三書記生領事館員國府住友支店長千葉農會理事等の少數であつた出迎の人々フエリーボート内に入り挨拶を交換したが石井大使がレヂー市長代理及びマクナブ氏等には特に東行當時の多大歡迎を感謝する所があつたホテル差廻しの自働車に石井大使ホテル支配人レヂー市長代理マクナブの諸氏搭乘し隨員夫々出迎の自働車に分乘してフエアモントホテルに向つた

### ▲予のみ受くべき光榮に非ず

「非常に疲れた、人間にして呉れ」

と風呂に…石井大使語る

フエリーからフエアモント旅館に赴いた石井大使を追ふて記者は自働車で直ちて大使の自室を襲ふた「汽車の疲れもあるから短い時間ならば」との條件で記者を引見する無造作な白つぽい背廣を着て長い歡迎責にも別に面痩れの樣も見ゑ無い「御使命の御成効を祝します」と先づ慶賀の意を表すると「ヤア如何も有難ふ兎に角無事で歸つて來ましたと」て語る「我等一行は米國到る處非常な歡迎を受けた併し乍ら之は

### ▲我等個人が受くべきものに非ず

日本國民全體が受くべきものである我等は此歡迎の樣を日本に歸つて全國民に報告する筈であるが窃かに米國民の厚意のある所を知つて感謝に堪へ無い次第である」と述べて更に話題を變へる「東部に行てからも何せ種々な用務や歡迎の爲めに寢不足である夫れに一時間に四五十哩の速力で自働車を走らせるものだから風邪に罹つた其處で紐育を去つてアトランチック市に行つたが二三日して全快したのである此爲めオエスターヽ灣にル氏を訪問が出來なかつた

### ▲大歡迎會の際には前大統領のタフト氏にも逢へば又ヒユス氏にも亦目にきにつきレヂー秘書役前一行歡迎委員長のマクナブ氏其他フエアモントホテル副支配人新聞記者等にて日本人側は富田副領事及び三書記生領事館員國府住友支店長千葉農會理事等の少數であつた出迎の人々フエリーボート内に入り挨拶を交換したが石井大使がレヂー市長代理及びマクナブ氏等には特に東行當時の多大歡迎を感謝する所があつたホテル差廻しの自働車に石井大使ホテル支配人レヂー市長代理マクナブの諸氏搭乘し隨員夫々出迎の自働車に分乘してフエアモントホテルに向つた

### ▲予のみ受くべき光榮に非ず

「非常に疲れた、人間にして呉れ」

と風呂に…石井大使語る

フエリーからフエアモント旅館に赴いた石井大使を追ふて記者は自働車で直ちて大使の自室を襲ふた「汽車の疲れもあるから短い時間ならば」との條件で記者を引見する無造作な白つぽい背廣を着て長い歡迎責にも別に面痩れの樣も見ゑ無い「御使命の御成効を祝します」と先づ慶賀の意を表すると「ヤア如何も有難ふ兎に角無事で歸つて來ましたと」て語る「我等一行は米國到る處非常な歡迎を受けた併し乍ら之は

### ▲我等個人が受くべきものに非ず

日本國民全體が受くべきものである我等は此歡迎の樣を日本に歸つて全國民に報告する筈であるが窃かに米國民の厚意のある所を知つて感謝に堪へ無い次第である」と述べて更に話題を變へる「東部に行てからも何せ種々な用務や歡迎の爲めに寢不足である夫れに一時間に四五十哩の速力で自働車を走らせるものだから風邪に罹つた其處で紐育を去つてアトランチック市に行つたが二三日して全快したのである此爲めオエスターヽ灣にル氏を訪問が出來なかつた

### ▲大歡迎會の際には前大統領のタフト

伯國の如く耕作物の關係上小農組織にては大なる利益得がたき場所に於ては、初より自己の發展力を測つて二十町歩乃至四五十町歩を所有するの優れるを考へねばならぬ、若し土地が製造工業の如く、資本と勞力とを加ふるを以て、同一場所に於て二倍三倍五倍と多々益々收穫を增し得るものとせば、何も敢て苦しんで廣き土地を開墾するに及ばざるも、土地には自から生産力に限りありて、是れ以上如何に資本を投じ勢力を加ふるも、更に收穫を增し能はざるのみならず、過度の耕作は却て收穫を減少せしむるものなるが故に、經濟學は土地に「收穫遞減の法則」あるを指摘して之を農業者に敎へたものである。

要するに土地は私共の生活に最も密接なる關係を有し、之を選定し耕作するには經濟學の元則に依るを最も利益とし、更に之を私共の實生活に適用して幸福たらしめんには、能く社會の實情に照し、徐ろに之を定むるを肝要とす

## ●大命を果して故山へ

（桑港近信）

▼極東の外交に新面目を施して意氣揚々と歸途に▲

——背廣服でニコ〳〵の大使……一行も壯健で——

▼石井大使の一行十一月八日無事着桑す

### ▲滊車の運轉手に握手

▼大使感謝の意を表す

石井大使一行の旅程、時節柄頗ぶる秘密に附せられたる爲め一行東部を既に出發して當地に着する時刻なども一齊秘密で其の筋官憲以外何人も窮知することは出來なかつた十一月八日夕方着するだらうとの噂が愈々當日になつて早まり午後三時フエリ着との報を知り得たのは正午過ぎだつた之れより先き當地よりは埴原總領事、大山領事、藤井官補、土井東洋汽船支店長、牛島在日會長、神崎在日書記長の諸氏大使一行着桑時間の報に接し

△一行搭乘の　サンタフイ線の灣東鐵道會社のスタント氏隨行し來た一行及び出迎の人々サンタフイの聯絡渡船に移乘して雜談に移る三ケ月以前に始めて米國の本土に接し桑港灣の光景に舊情をしのぶに間もなく午後三時四十分フエリに着した

### ▲市長代理出迎

——マクナブ氏も見ゆ——

之れより先きフエリには石井大使一行午後三時着との報を得て出迎の人々サンタフイ渡しにて俟つ秘密の出迎へとて日米の名士も極少數であつた桑港市よりは市長都合にて出迎難氏にも逢へば又ヒユス氏にも亦目にきにつきレヂー秘書役前一行歡迎委員長のマクナブ氏其他フエアモントホテル副支配人新聞記者等にて日本人側は富田副領事及び三書記生領事館員國府住友支店長千葉農會理事等の少數であつた出迎の人々フエリーボート内に入り挨拶を交換したが石井大使がレヂー市長代理及びマクナブ氏等には特に東行當時の多大歡迎を感謝する所があつたホテル差廻しの自働車に石井大使ホテル支配人レヂー市長代理マクナブの諸氏搭乘し隨員夫々出迎の自働車に分乘してフエアモントホテルに向つた

### ▲予のみ受くべき光榮に非ず

「非常に疲れた、人間にして呉れ」

と風呂に…石井大使語る

フエリーからフエアモント旅館に赴いた石井大使を追ふて記者は自働車で直ちて大使の自室を襲ふた「汽車の疲れもあるから短い時間ならば」との條件で記者を引見する無造作な白つぽい背廣を着て長い歡迎責にも別に面痩れの樣も見ゑ無い「御使命の御成効を祝します」と先づ慶賀の意を表すると「ヤア如何も有難ふ兎に角無事で歸つて來ましたと」て語る「我等一行は米國到る處非常な歡迎を受けた併し乍ら之は

### ▲我等個人が受くべきものに非ず

日本國民全體が受くべきものである我等は此歡迎の樣を日本に歸つて全國民に報告する筈であるが窃かに米國民の厚意のある所を知つて感謝に堪へ無い次第である」と述べて更に話題を變へる「東部に行てからも何せ種々な用務や歡迎の爲めに寢不足である夫れに一時間に四五十哩の速力で自働車を走らせるものだから風邪に罹つた其處で紐育を去つてアトランチック市に行つたが二三日して全快したのである此爲めオエスターヽ灣にル氏を訪問が出來なかつた

### ▲大歡迎會の際には

は前大統領のタフト氏にも逢へば又ヒユス氏にも亦目にきにつきレヂー秘書役前一行歡迎委員長のマクナブ氏其他フエアモントホテル副支配人新聞記者等にて日本人側は富田副領事及び三書記生領事館員國府住友支店長千葉農會理事等の少數であつた出迎の人々フエリーボート内に入り挨拶を交換したが石井大使がレヂー市長代理及びマクナブ氏等には特に東行當時の多大歡迎を感謝する所があつたホテル差廻しの自働車に石井大使ホテル支配人レヂー市長代理マクナブの諸氏搭乘し隨員夫々出迎の自働車に分乘してフエアモントホテルに向つた

### ▲予のみ受くべき光榮に非ず

「非常に疲れた、人間にして呉れ」

と風呂に…石井大使語る

フエリーからフエアモント旅館に赴いた石井大使を追ふて記者は自働車で直ちて大使の自室を襲ふた「汽車の疲れもあるから短い時間ならば」との條件で記者を引見する無造作な白つぽい背廣を着て長い歡迎責にも別に面痩れの樣も見ゑ無い「御使命の御成効を祝します」と先づ慶賀の意を表すると「ヤア如何も有難ふ兎に角無事で歸つて來ましたと」て語る「我等一行は米國到る處非常な歡迎を受けた併し乍ら之は

### ▲我等個人が受くべきものに非ず

日本國民全體が受くべきものである我等は此歡迎の樣を日本に歸つて全國民に報告する筈であるが窃かに米國民の厚意のある所を知つて感謝に堪へ無い次第である」と述べて更に話題を變へる「東部に行てからも何せ種々な用務や歡迎の爲めに寢不足である夫れに一時間に四五十哩の速力で自働車を走らせるものだから風邪に罹つた其處で紐育を去つてアトランチック市に行つたが二三日して全快したのである此爲めオエスターヽ灣にル氏を訪問が出來なかつた

### ▲大歡迎會の際には

は前大統領のタフト

### ▲在米同胞の事も話に出た事はありませんか乎」と質問すると「今は非常に疲れて居るから之れ以上のた話は御免蒙むる……之れから湯に這入つて人間にならねばならぬから」と逃げる「露國に又復革命が起つた樣ですが御覽でしたか」と訊ふと「否や未だ新聞を見ないので知らない爾うですか」と簡單な記者の說明に興味の耳を峙たてゝ居られた「支那問題の覺書交換は汽車中新聞で見たが之れは二日文書を作つて三日汽車に乘つたので發表は出發後であつたのだ」と云ふ汽車はセントルイスからカンサスを經てサンタフエー線にて着桑したものだと說明であつた

### ▲日本の輿論が御心配…△大使渡米の效果…

永井書記官語る

「我々は只從いて歩いた計りですが大使は中心の方でよくあの忙がしさを健康で完全に使命を遂げられたものだと驚いて居りますよ」と隨行の永井書記官は語る「何處に行つても我等は歡迎された東部の人は心から大使が米國に來て卒直に其所信を語つた事を喜んでゐた彼等は日米の間に兎に角一種相疑ふ眼を以て事物を見ると云ふ傾向もある際大使渡米の效果は日米親善の爲めに頗ぶる效果ある事を聲明して居つたのである米國全體が

●戰爭的●氣分になつて眞面目に自由の爲に鬪ふて居るのは特に東部で顯著な事實で食糧の節約なども目立つて見ゐる現に我等が食事の際など

## ◉伯國歌壇

### なやみ

よしこ子

わが庭にあまた咲きたる紅の花の一輪誰にか送らむ

淋しさを好む性ゆゑ寄り集ひ笑ひ興する男をう忌む

思ふ事をゐ云はぬ女と生れこしわが運命を泣く日のつづくたはむれかはた眞心か分ちかね君が言葉にうむきしを悔ゆ

わが戀ふる君が腕に抱かれて泣かむとぞ思ふ雨の夜の閨

二十歳過ぎ日にあせ行くわが頰の血潮の色を保つすべもがなとこしへに處女の誇りを保たむと思ふ刹那に涙せしかな

倫落の女をけなすかたくなの老人どもを我があざ笑ふ

夏眞晝數千尺の飛行機の上より落ちて死なばやと思ふ

嗚呼遂に吾れを服しぬ弱きものに女てふ名を授けし聖に

### 海　小夜

海悲し山亦悲し醉ひ痴れし戀の瞳に天地もなし

風流の都落人若き兒をいと潮風のいぶかしげなる

## 讀者と記者

諸者足下、近頃伊太利の戰況が惡しき爲め日本軍隊を歐洲に出動せしむるや否やの問題が大分八釜しい樣であるが、此の問題が一體どう決着するものでしょうか、昨今汽車に乘つてゐても、途を歩いてゐても伊太利人らしい白人から「日本はなぜ歐洲に出兵しないか、日本人はズルイ、表面には聯合軍側だといひながら只金のみ儲けることを努めて一向に聯合軍の爲めに力を添へない、之は甚だケシカラン」と憤慨談を打ち懸けらるるが、此の場合には一體何んと返答をしたものでしょうか、敎へを受けたいのであります(田舍生)

御最なる質問であります、歐洲の戰況が聯合軍に不利なる場合には背に腹は代へられぬ譬の如く平素好ましからずと言へる日本出兵も困る時には請求する事になる日本も聯合軍側に在る以上は聯合軍側の勝利を望むと共に其の勝利を得る爲めに分相應の援助をしなければならぬ否現に支那海、印度洋、南北太平洋の警備を日本一手にて引き受け居るのみならず地中海にまで艦艇を遣つて敵の潛航艇驅逐を爲して居る又此の戰爭の爲めに將校兵士艦船を犧牲にして居るのも決して少なくない既に商船のみにても十八隻も沈めてゐる其れに露國は獨逸と單獨講和の談判を開始した西比利西はケレンスキーを推し獨立を宣言して單獨講和に反對してゐる併し之は獨逸の指金で日本に西比利亞攻略の機會を與へない爲めの作略らしい、うこで東洋の方面も如何なる形勢に變つて來るかも知れぬ、或は露國單獨講和の結果が日本が露國と戰かはねばならぬかも知れぬ、マア大體こんな譯で日本は今日東洋守備の爲めに歐洲出兵は事實出來ないのである今の處伊太利には氣の毒だが亞細亞の守備も亦大切である此の世界的大戰は或る一部の出來事丈を以て是非の判斷は六ヅケしい、亞細亞の天地又多事である(記者)

## ▼衞生講話▲

醫師　高岡專太郎述

### 胃腸病の話

#### (三)急性腸カタル

急性胃カタル同樣隨分多く遭遇する病氣である。

▲原因　は胃カタルと同じ樣に食物の不攝生即ち食傷から來る場合が一番多い、次には喰い合せの惡しき時、不良の飮水、暴飮暴食或は感冒寢冷へなどから起る事もある、永い間便秘して固き便塊が出來た爲めに刺戟されて起る事もある。

尙諸種の黴菌(チブス、コレラ、赤痢等)又は蠅の幼虫が腸内に這入つて惹き起す事がある。

一體平生から慢性胃カタル或は慢性腸カタルがあつて俗に少し胃が弱い腸が弱いと云ふ人は本病になり易いのである。

其他諸種の傳染病、肝臟或は肺病心臟病がある爲めに此病氣を惹き起す事がある。

犯さるゝ場所　一概に腸と云ふても俗に百尋と云はれる小腸もあり大腸もあり、可なり長い管で一樣に全體を犯されるとはきまつて居らぬ、小腸の内でも十二指腸炎、空腸、廻腸炎或は大腸の出口で直腸炎と云ふ樣に其犯された場所によつて名前がある。

▲徵候　此病氣に罹ると大抵は腹部が膨滿、または重苦しい感じがする、多く臍の周圍或は下腹に疼痛を感じ腸鳴があつて一日二三回或は十數回の下痢を來す、斯ふなると身體が疲勞れる、喉咽が干く、時には少し熱が出る、殊に小兒と老人は可なる高い熱が出る、多くの場合胃の方も同時に惡るくなつて食慾が無くなと嘔心を催したり嘔吐たりする、また稀には下痢を來さぬ事もある。

下痢の狀態　は犯された場所、病毒の如何によつて非常に相違がある殊に直腸炎の樣に腸の下の方にカタルが起ると便を催す事が烈くなり何度便所に通つても出盡る、まだ殘つてる樣な感じがする。

便の狀態　柔さはいろ〳〵である水見たいになつて澤山出るのもあり直腸丈け惡るい樣な時は兎の糞見た茶のさましたのを少し宛何邊にも飮いにボツリ〳〵何邊も行く事もある普通は粘液と云ふて葛湯見たいなのつた處で重湯、粥、卵或は麵麭を加減してやる樣にする。

こんな時に牛乳は全く飮ませぬ方が良い、うして

腹部は湯タンポ、温石、燒鹽或は懷爐又は巴布(熱湯でウドン粉をこねて張り附ける等)で温めてやると湯タンポなどの重い物を腹に載るのが良くない事があるからこんな時は温濕布と云ふて西洋手拭を湯に入れて一寸絞り下腹全體に當て其の上に油紙を掩ひ之を二時間置き位にくり返へす、これは疼痛並びに下痢を止めるのに素人手當として大變效果がある。

急性腸カタルに嚴禁す可き食物は脂肪の多い物獸肉類、果物、酸ばい物、牛乳、野菜其他の固形食物である。

## ●沖繩よりの便り(二)

琉球紙

### 問題の女本莊幽蘭沖繩に姿を現はす

南洋を跨にかけて怪氣焰

天下一品の長い肩書

女だてらに南洋、支那方面を踏破し時には女優となり或は婦人記者となり兎角問題の女として世間をさわがす女傑本莊幽蘭女史が此程突如として沖繩にうの艶姿を現はした、記者は直ぐに車を飛ばして檜原旅館を訪ねた、堀割に面した涼しい座敷に通される、暫くして白つぽい御召夏衣に紗のサンマーコートを羽織つた細面の中年增髮を女優髷にした女史が見わる、なか〳〵落着いた態度、互に初對面の挨拶がすむ南洋、支那、臺灣、琉球相互便益商會々主女流講談師本莊幽蘭と恐しい永い肩書のある名刺を出して記者を吃驚させる「妾は本縣は初めてゞす藝術家としての幽蘭はもう世界周の事ですから此の度は實業家としての幽蘭としてた交際を願ひます」とソロ〳〵怪氣焰が始まる、記者は眉毛に唾をして馬鹿されぬ樣に用心する、東京を出たのが大正四年の春で、あれから諸々方々を廻つて終いに南洋からシンガポール、香港、上海、臺灣と各地を巡つて來ました、臺灣には半年ばかり滯在しました、うの歸途に先島を經て本縣へ來た次第です、昨年から相互便益商會と云ふものを創作しまして南洋や支那、臺灣、琉球の各地の特産物を實費で取次販賣する目的でやつて居ます、これからは大いに實業界の方に雄飛しようと思ひますから何分よろしく御願ひいたしますよ若い時は社會が信用して呉れませんけれど、もう妾見たいな婆さんなら大丈夫でせうと小股のキリツト上つた所にいかにも男まさりの氣象が伺はれるうすうす内に御銚子が運ばれる七輪にカン〳〵火を起して豚のすき燒と來た「妾どんな暑い時でもすき燒でなくちやた飯が頂けません」と言譯する「た酒は如何です」と問へば「た酒はもう駄目です以前は隨分やつたものですが……」立て續け四五杯やつた目元はホンノリと櫻色になり薄い紅唇からは沼々として怪氣焰が擧る「商賣をやると申しても全然

藝術を棄てる譯ぢやありません畫は實業家で夜はやつぱり藝術家です相手があれば芝居もやります暇があれば創作もやる考へです、何も儲かる爲めに商賣するのぢやありません只少しでも社會のために盡したいと云ふ徵意に外ならぬのです」と女にも似合ず殊勝な事を云ふ、やさしい女優から南洋、臺灣、琉球を跨にかけた貿易商になるとは大膽不敵といふべし。

●やし　犬養君と越山太刀三郎君の秘密に計畫して居る伊東内閣の顏觸れだとてコンナ通信が來た▲總理伊東、内務原、外務牧野、大藏坂谷、陸軍田中、海軍財部、司法平沼、文部安廣、農商務犬養、遞信中橋、鐵道院床次▲寺内首相は今度合併せしめた移民會社の成立が大得意で吾輩がイッ罷めても此事業丈は國家百年の繁榮の基礎として殘ると言つて居る。

●木蔭

## ●新年號發刊に就て

來る一月元旦を以て十二頁大の新年號を發刊し同日イの第一便を以て讀者諸君に發送致します而して同新年號には「名刺交換欄」を設け名刺形大の廣告一つを二ミルレースとして謹賀新年といふ名刺交換の代りに「時報紙上」にて賀正の祝詞を交換する仕組に致しましたから御希望の方は十二月廿五日迄に御申込を願ひます

▲又營業家にして特に新年號に營業廣告御希望の方は大至急御申込を乞ふ。

## ●米作地として有名なる「イグアペ」植民地

## 伯刺西爾拓殖會社

## イグアペ植民地

◉當植民地は醫師、獸醫、農業技師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖上必要なる組織を有す

◉當植民地は道路四通八達交通自在なり

◉當植民地に於ては新來植民は耕作時期まで日雇又は請負勞働に從事することを得

●當植民地には資力乏しき者にても自作農業爲し得る方法あり

●汽車のサントス港發は每週月曜水曜の兩度午前九時二十分發にして同列車のジユキア着は同日午後四時なり此の間の二等汽車賃は金十ミル百レイス

◉視察に最も便利なる「イグアペ」植民地

## 聖波羅土地木材殖民會社

◉當社はチエテ、リヲフイユの兩河の間七十キロメートルに渡り數万アルケーレスを有する本州最大の殖民地にして水質良好、氣候溫和なる膏肥の地リヲフエユ、及ビリグヒの二部分を廉價にて且つ其拂込方法を容易にして日本人諸君に提供す。

◉當社は九百數十家族の各國人土地所有者を有し其の中日本人は二百有餘家族にして現在者百家族何れも入殖後日尙淺きにも不拘著しき成績を擧げつゝあるは今更喋々するを要せず一度視察して僞らず飾らざる絶好殖民地の眞實を知られたし(十月上旬調査)

御用の向きは左記の場所へ御照會ありたし

宮崎八郎

Director-gerente Dr. James Mellor

Comp. de Terras, Madeiras e Colonização de S. Paulo.

Biriguy.

◎日本近信

●恩賜金傳達式

▽三ッの言渡

十月十日午前十時東京府知事室に於て恩賜金傳達式を行ふ井上知事、岡田警視總監、東園內務部長、高橋東京市長代理、玉井南葛飾郡長其他郡長等相會し東京市二萬圓他の郡市島嶼に三萬圓の割合にて御下賜金を分配し何れも目錄を授與せるが郡市に割合てられし三萬圓の內譯（死亡者十圓重傷者五圓の割）左の如し

一萬六千八百圓　南葛飾郡
六千六百五十圓　荏原郡
三千二百圓　北豐島郡
一千百八十圓　豐多摩郡
一千七十圓　南足立郡
二百八十圓　南多摩郡
百九十圓　北多摩郡
二十圓　西多摩郡
四十圓　八王子市
五百圓　伊豆七島

尙之を傳達し了りて井上知事より此災害の善後策に就き一場の訓示を爲し更に恩賜金使用の條件として一般罹災民に徹底するやうにして貰ひたきこと死者の靈を慰める方法を取ること及び徒らに消費せしめず成るべく恩賜の事を長く記念せしむるやう取計らはせる事の三つを言ひ渡したり又高橋東京市長代理は御禮の爲め午後一時參內せり

●お會式

▽何も彼も題目だらけの池上

十月十二日の會式は天氣都合がよかつた路も草履で樂に步ける然し宵の程は例年よりは淋しいやうに思はれた兩側の露店は相變らず飾り立てて栗や柿や秋の色が堆く盛上げられてゐた本門寺前は混雜が烈しいが其筋の注意がよく行屆いてゐるだけに左側勵行が順よく區分され小兒の手を引いてゐても左程の危險は認められなかつた

▲皆是れ題目　さうは云ふものゝ流石にお會式である電車の裡も往來も賣品も呼び聲も本堂前の石段を上る間拍子も悉く妙法蓮華經ならざるはなかつた寺內の內坊は何々講の目標が明るく若い女までが狂ふばかり團扇太鼓を叩いてゐた本堂はお籠りの善男善女で盛上る程であるが其の多くは老人で今夜一夜をお祖師樣と首ッ引きで聲のかれるまでお題目を唱へるのであらう其下準備かお持たせの割籠を開いて大きな握り飯を喰べてゐる人さへあつた

▲お堂の周圍　は舊式な見世物が俗惡な囃子に見物をきよろつかせてゐた娘劍舞やお杉お玉やとても市內では見られないものがあつた本堂の脇の說敎所では白い法衣を纏つた僧侶が頻りに妙法の功德を說いてゐる此處にも善男善女が犇めいて孰れも汗ばんだ顏が光つて見えた境內も可なり雜踏はしてゐたが身動きの出來ない程では無いけれども斯うして夜になり八時九時と更けるに連れ例の萬燈に趣向を凝らした連中が一杯機嫌の題目可笑しく品川から順路を大森へ出で花々しい景氣を見せてゐたけれども氣の爲いか淋しく感じられた翌朝は堀の內へ廻つて叩き足り無い太鼓を打つであらう物價は區々で柿が一括十錢內外山芋が二三十錢題目の紙旗が五錢內外であるがこれは更ける程下るやうだ又堀の內和田妙法寺のお會式も相當に賑はつた

●腹一文字に搔切りて

—亂杭に縊死を遂ぐ—

別府溫泉の遊客

福岡縣山門郡大和村山田早苗（二十六年）は去月上旬より別府溫泉に入湯中十月十四日夜同地濱服町新玉樓に登樓したるが翌朝同海岸にて腹十文字に斬り咽喉部を突き且つ亂杭に縊死し居れるを發見せり原因は金に窮せる結果なるべく同樓にて切腹せるも死切れず海岸に出で遂に之に及びたるものなりと

●秋晴の空に黑き

橋頭の弔旗

△明石五十餘勇士の英靈を載せて歸る

地中海に於いて壯烈なる戰死を遂げたる帝國軍艦榊の艦長上原中佐竹垣機關中佐吉田兵曹長以下五十八名の遺骨を搭載して歸航の途に上りたる軍艦明石は豫定の如く十月二十二日午前十時三十分秋晴の空高く其の檣頭に遠洋航海の表號なる長旗と黑色の弔旗とを飜へして橫須賀軍港に入り來り在港の各艦艇は何れも登舷禮を作して之を迎へたり明石の投錨するや永田鎭守府參謀長以下の幕僚及び海軍省より差遣されたる山縣副官は直に汽艇を飛ばして明石を訪問し三宅艦長に對して其の歸港を祝し併せて榊艦戰死者の

▲英靈に對し　て叮重なる弔詞を述べたり原砲術長は三宅艦長に代りて明石の戰績を語りて曰く本艦は大正三年靑島の戰役に參加し四年の春印度洋警備の任に當り更に秋季の大演習に參加したる後大正五年二月加藤司令官の旗艦として遠く地中海に出動し專ら敵艦擊攘の任務に當りしが八月中旬

▲僚艦最上　と共に特別任務を解かれ榊艦の勇士の英靈を載せて再び母國に歸り來りしなり特別任務中は屢敵艦を見たれども一度も敵と砲火を交へたることなく頗る技癢に堪へざるの感あり榊艦は六月十一日僚艦と共に地中海の某地點に於いて運送船護衛の任に當り途中正午左舷に當りて敵艇を認めたれば直に之を乘沈めんと四十海里の全速力を出し約二百米突の近距離に於いて敵艇を目懸けて

▲暴彈を投下　したるに敵艇は死物狂ひとなり魚雷を發射して舳部の喫水綫を貫きたり當日上原艦長と竹垣機關長とは艦橋に在りて戰ひを督し庄司大尉は當直室に在り榊は敵の魚雷に當りて舳部を海中に突き入れて暴發し上原艦長の身體は一旦

▲空中に舞揚　りて海中に落ち悲壯なる最期を遂げ竹垣機關長と庄司大尉とは流血淋漓として艦上に橫りたり僚艦及び英國艦隊は急を見て來り援け半ば沈沒に瀕したる榊を曳き死傷者と共に一旦附近の陸地に到りて應急の手當を施し更に設備完全したる某地の病院に負傷者を收容したるが竹垣機關長は終に死し庄司大尉のみは漸く快復し目下は杖に縋りて步行し得らるゝに至りたり世人多くは榊艦は沈沒したりと思ひをれど目下某地に於て修理中なれば再び海上に其雄姿を現はすべしと斯て

▲明石の幕僚室　に安置されたる上原竹垣兩中佐以下の英靈を宿せる遺骨の筺は海兵團より差遣したる山室兵曹以下の人々手に〳〵之を捧持して海兵團の汽艇に移乘し逸見波止塲より上陸し、第一の砲車には將校、第二の砲車には下士卒の遺骨を載せ砲車毎に卄一名の水兵之を挽いて軍港正門を出で各團體及び市民の堵列の中を汐留町を經て零時卅分水交社の大廣間に移されたり、大廣間正面には

▲一双の金屛風　を背に二段の祭壇を設け第一段には兩中佐、第二段には下士卒の遺骨を安置し、鎭守府より生花二對、橫須賀市より一双の供物を供へ遺族として艦長未亡人きみ子、機關長未亡人くり子及び吉田兵曹長未亡人の三名、永田參謀長以下幕僚山縣副官、戶祭軍港長、田中工廠長、木村機關學校長、奧宮市長各名譽職員參列し良長院岡田住職大導師となり衆僧を率ひて莊嚴なる誦經法要を營み遺族を初め一同の燒香あり、二時式を終つて後上原中佐竹垣中佐及び吉田兵曹長の遺骨は直に各未亡人に引渡され他の遺骨は一と先づ海兵團に引渡したる後其れ〳〵遺族に下附さるゝ筈なり各未亡人は何れも

▲黑の喪服に　身を裝いて愁容いた〳〵しげに見え讀經回向のうち時をり例の手巾をもて眼を拭ひ哀傷胸に充ちたる樣子なりしが流石に武士の妻、燒香禮拜の時の態度の立派なりしには參列の人々皆な感じ合へりといふ



6.　s で終る語　o lapis(鉛筆).

**女性名詞**

1.　a で終る語　a casa,　a meza,　a laranja.
2.　ã で終る語　a lã(羅沙),　a manhã.
3.　agem で終る語　a passagem(汽車賃),　a ferragem(金物).
4.　dade で終る語　a cidade,　a bondade(親切),　a idade(年齡).

**名詞の數**　名詞は二つ以上のものを言ふ場合は語尾を變化す。大抵の名詞は s を附して復數語となせど尙次の如き規則あり。

1.　當り前の音又は鼻音の母音字で終る語は單に s を附す
　例　casas,　irmãs,　sofás,　chapeus.
2.　ão で終る語は單に s を附して復數となすものと尙ほ ões 又は ães となるものあり。多くの場合 ões となる。
　ãos の場合　例　mão—mãos, irmão—irmãos, cidadão—cidadãos(市民).
　ões の場合　例　botão(釦)—botões,　lição—lições　portão(門)—portões,　sabão—sabões.
　ães の場合　pão(麪包)—pães.
3.　al, ol, ul で終る語は l を失ひて es を加ふ。
　例へば　sol—soes,　sal—saes,　cafezal—cafezaes.
　例外　consul—consuls.
4.　el で終る語及び强音の無い il で終る語は el, il を eis に代ゆ。
　例　papel—papeis,　fossil(化石)—fosseis.
5.　强音のある il で終る語は l を失ひ s を加ふ。
　anil(藍)—anis,　funil(漏斗)—funis.
6.　m で終る語は語尾を ns に代ゆ。
　例　homem—homens,　fim—fins,　som—sons.
7.　r, z, n で終る語には es を加ふ。
　例　logar—logares,　mulher—mulheres,　flor—flores,　mez—mezes,　abdomen(腹部)—abdomens.
8.　s で終る語は單復同形である。
　例　o lapis—lapis,　o pires(椀皿)—pires.



# 會　話

**第七頁**　Que tal は como(如何に)とするも差支なし。上天氣です… Faz bom tempo. escuro(暗い)の反對は claro(明い)。verdade 眞實。mentira 虛。ameaça 脅かすとか，雨風の將に至らんとす等の意あり。chuva 雨。chove 雨が降ります。tarda 手間取ります。此の語の代りに demora を用ふるも同意。julga 相像します。pensa は考へます。少しの相違あれど普通邦語にては思ひますと言ふ。de durar は永續きす可きの意である。Esta fazenda dura muito. 此の反物は永持ちがします。Não é mais que 何々より余計で無い。即ち何々に過ぎません。**第八頁**　Clareando は clarear (明くなる)の變化にして明くなりつゝである。pouco a pouco. 少しづゝ,漸次。alem disso その外に。pensei 私が考へました。Nem por isso. それ程ではないの語句である。signal 徴し又は打金等の意あり。concertou 直した,修繕を爲した。variavel 變り易い。razão 理由。

## Uma Visita　訪問

a　Quem é?　Quem será que bate á porta.?
　誰ですか。戶を叩いて居るのは誰でせう。

b　Sou eu.　Eu sou Antonio.
　私です。アントーニオです。

a　Entre.　Bom dia; muito gosto de o　ver.
　御入りなさい。今日は。御目に掛かつて嬉しい。

b　Bom dia; e eu tambem.
　今日は。私も御同樣です。

a　Faça　favor de sentar-se.　Sente-se no sofá
　何卒御坐り下さい。長椅子に御坐りなさいまし。

# 三人旅

南鳩生

（八）

病氣が愈々癒つたので、昨夜は良い心持で樂寢した、僕等のレヂストロ逗留期も、今日は最後で、明日は桂植民地へ出發と云ふので、當地視察をタツタ獨り取り殘された僕は、いやでもたつても、今日は出掛けなければならなくなつた、朝の中は白鳥さんが、他に何か用があると云ふので、晝食後馬車で出發、植民地一週とプログラムが定まつた、出發と云つても、別に準備の必要がある訳でもなく、唯身體一つを馬車の中に投り込めば可いので、食後待つ間程なく遣つて來た馬車に飛乘つた。

馬は二頭で元氣の能さゝうな奴、車は買つて未だ間もない朱塗の米國製造、僕は乘るや否や、一體こんな頑丈な、大きな馬車が通ふり得る道路があるのか知らんと、思つたのである、所が白鳥さんは泰然自若とした態度で、徐ろに口を開ゐて「レヂストロ植民地は、本年に於て植民地内を、馬蹄鐵形に道路を全通し終り、二頭立の馬車で一週することが可能る樣になつた、其れに植民の家が、皆道路に沿ふて建てられて居るから、他の場所の如く交通不便の嘆が毫もない」と說明して居る間に、馬車はひろ〳〵とした道路を三丁程走つて雜木生い繁つた大きな木のある處まで來て居つた。

此の邊一帶の地は、大洋のウチリの樣に、綏勾配の起伏があつて、滿目綠鬱葱たる樹林の海である、四方の景色に見とれつゝ會社の市街地を離れ右に折れ曲ると、四號五號と地區が定まり、所ろ〴〵が開墾され、未だ燒け殘りの木株が生ま〳〵しく突立てゐた、地區の十號だと云ふ處まで來ると、一寸小綺麗な家が一軒あつた、之は誰の家かと聞くと、熊本縣の深町信一氏の家で、昨年の十月丁度今から滿一年前に入植し、三人家族で氣長に、ボツ〳〵開墾しながら播きつけた稻や、玉黍蜀や、豆の收穫で、本年は其れでも一コント八百八十四ミル、レイスを得て、馬二頭と、豚二〇頭を殖やしました、次年度は更に多くの收益を得らるゝこと、今から其れを樂みに働いて居るとのことであつた、此の人は元と布哇出稼から轉じし伯國に來たもので、始めから自分の墳墓の地は此處だと定めて懸つて居る丈に、爲すこと總てが永住的で、少しも急らず、無理せず、土地を開くと共に、自己の運命をも開拓すると云ふ意氣ごみで、悠々と而かも繼續的に行つて居るには、僕も少からず感心した。

其れから少し進んで、山口縣の國行卯一氏の家へも寄つて見た、此の人は「ビンガ」製造に經驗があると云ふので、昨年入植後直ちに甘蔗栽培を爲し、初年既にビンガにて一コントを儲け、他の作物にて二コント七〇〇ミルレイスを得たと云ふことである、更に愛知縣の服部與三郎氏の地區を車上より眺め、十八號地區の中尾秀雄氏の所で清水を一杯頂戴し暫時休息した、同氏は熊本縣出身で、大正二年以來本業の大工仕事に從事して居たが、ドーも面白からざる處から、獨立農業を思ひ立つて昨年の十月即ち今から一年前に入植した、此の初年は、仕事不馴と、準備不行届きとで、僅か二コントス位しか儲け得なかつたが、來年は大に奮發しますと云ふてゐた、僕等の今飮んで渴を醫した井も、彼れ苦心の結果で、堀下げ二間程の底に清水が涌いてゐたのが、如何にも麗はしかつた。

斯く戶別訪問をする中に、時間は遠慮なく過ぎ去つた、此の具合では到底今日中には廻り切れぬとは白鳥さんの叫びであつた、うこで以後は車上瞥見と取極めて、馬を走らすことにした、地區三十五號邊まで來ると丘陵の起伏稍〻狹く且つ急に、其の間を細流潺湲として、小石を打つの狀は、日本の山の手田圃其の儘である少し下つて地區三十九號大野氏の所有地まで來ると、土地平坦となり、いくら家を明け放したつて、盜賊の方で御免蒙るだらうぢやないか。」

「さう云へば、うれも然うだなア。」

「うれからまた乃公達を、斯うして飼つて居る間は、何か食はせてくれなけりやなるまい、さうすりやア又うれ丈主人に費用をかけると云ふもんだ、だから今の中に暇を取る方が却つて忠義になる勘定だせ。」

「なるほど、考へて見ると全く然うだなア。」

と、とう〳〵其氣にならうとしました。

所へ主人が、痩せ衰へた顏をして杖にすがりながら出て來ましたが、

「コレ〳〵た前達、私はもう今日からは、乞食になつて廻らなけりやア自分の食物も無くなつてしまつた、た前達には氣の毒だが、今から何所へでも行つてくれ、さうして好い家があつたら、遠慮無く奉公してくれるが可い、ア、長い間よく勤めて居てくれたが、もうこれがた名殘りだ。」

と、手で頭を撫でたり頰を、すりつけたりしました。

すると二匹は顏見合はせましたが急に又思ひ返して。

「滅相な事仰有います、旦那樣が乞食にた成りになるのに、私共が他所に奉公して、どうして氣樂な食事が出來ませう。」

「貴君が乞食に御成りになるなら、私共も御供をして一所に野良犬になりませう。」と、右左から尾を振りながら、側について來ますので、主人も嬉しく思ひまして、其二匹を連れたまゝ、方々乞食をしてまはりましたが、うれがまた評判になつて、犬の乞食、犬の乞食と大層人に可愛がられ、わかげでこの主從は、樂に世を過ごす事が出來ました。

## 犬の乞食

むかしある村に、富有の百姓がありましたが、うの忰の代になりますと、運が急に惡くなつてすつかり身代をすつてしまひ、田地や山は疾うに人手に渡り、家邸も擔保に入つてしまひ、奉公人は皆居なくなつて、殘るは二匹の犬斗りになりました。

ある時うの犬の一匹が相手に犬に向ひまして、

「どうだい白公、れい達もかうやつて、長く此家に厄介になつてるが、この通り旦那が貧乏しちやア、長くこゝにも居られないから、新たに奉公口を探さなけりやなるまい。」と云ひますと、相手の犬は耳を立つて、

「うりやア黑さん、間違つてやしないか、景氣の好い時丈奉公して居て旦那の勝手が惡くなつたら、直ぐ逃足になるのは恩知らずと云ふものだらうぜ。」

と、容易に贊成しませんでしたが、

「所がうれが考へものだよ第一かうして乃公達の居るのは、みんな盜賊の用心だらう、所が家がこの通りぢやア、何も取られる物が無いから、いくら家を明け放したつて、盜賊の方で御免蒙るだらうぢやないか。」

「さう云へば、うれも然うだなア。」

「うれからまた乃公達を、斯うして飼つて居る間は、何か食はせてくれなけりやなるまい、さうすりやア又うれ丈主人に費用をかけると云ふもんだ、だから今の中に暇を取る方が却つて忠義になる勘定だせ。」

「なるほど、考へて見ると全く然うだなア。」

と、とう〳〵其氣にならうとしました。

所へ主人が、痩せ衰へた顏をして杖にすがりながら出て來ましたが、

「コレ〳〵た前達、私はもう今日からは、乞食になつて廻らなけりやア自分の食物も無くなつてしまつた、た前達には氣の毒だが、今から何所へでも行つてくれ、さうして好い家があつたら、遠慮無く奉公してくれるが可い、ア、長い間よく勤めて居てくれたが、もうこれがた名殘りだ。」

と、手で頭を撫でたり頰を、すりつけたりしました。

すると二匹は顏見合はせましたが急に又思ひ返して。

「滅相な事仰有います、旦那樣が乞食にた成りになるのに、私共が他所に奉公して、どうして氣樂な食事が出來ませう。」

「貴君が乞食に御成りになるなら、私共も御供をして一所に野良犬になりませう。」と、右左から尾を振りながら、側について來ますので、主人も嬉しく思ひまして、其二匹を連れたまゝ、方々乞食をしてまはりましたが、うれがまた評判になつて、犬の乞食、犬の乞食と大層人に可愛がられ、わかげでこの主從は、樂に世を過ごす事が出來ました。

## ●石黑忠悳友誼に厚し

日本赤十字社長男爵石黑忠悳圓轉滑脫最も情誼に厚くして能く友人の面倒を見る、頃日某所に新潟縣人の會あり、忠悳臨んで一場の懷舊談を試みて曰く「予の友故室孝次郎君は鄕里の鐵道開通に熱精を注ぎ、奔走斡旋十年一日の如く努力された甲斐あつて今日の便を見るに至つた、諸君北越鐵道の開通は實に室君の賜ものなることを忘れてはなりませぬが、獨り悲む難業漸く成つて室君在らず此勳功は已に故人となつて諸君と此喜びを共にする事が出來ぬのは返す〴〵も遺憾である」と言吶し涙下る



b　Como vamos de saude?　Como tem passado?
（コモ　ヴァーモス　デ　サウーデ　コモ　テン　パサード）
御健康は如何ですか。如何御暮ですか。

o　Assim assim.　E o senhor, como passa?
（アシン　アシン　エ　オ　セニヨール　コモ　パーサ）
何うか斯うかやつてます。うして貴方は如何ですか。

b　Muito bem, obrigado. Estão todos bons em sua casa?
（ムイト　ベン　オブリガード　エストン　トドス　ボンス　エン　スア　カーザ）
大變宜しう御座います。有難う。御内では皆さん御達者ですか。

a　Todos vão bem, graças a Deus.
（トドス　ヴォン　ベン　グラサス　ア　デウス）
御蔭樣で皆んな達者です。

b　Ah! Sim?　Estimo muito.
（アー　シン　エスチーモ　ムイト）
ア、左樣ですか。大變結構です。

a　Ha muito tempo que não o tenho visto.
（ア　ムイト　テンポ　ケ　ノン　オ　テーニヨ　ヴィスト）
久し振りで御目に掛りました。

b　Que é do seu pae?　Está em casa?
（ケ　エ　ド　セウ　パエ　エスター　エン　カーザ）
御父さんは。御家ですか。

a　Não senhor, ha uma semana que elle foi para o interior.
（ノン　セニヨール　ア　ウマ　セマーナ　ケ　エレ　フォイ　パラ　オ　インテリオール）
いゝね。一週間前に田舍へ行きました。

b　Não diga.　Queria fallar tanto com elle.　Precisava tratar sobre um assumpto importante.
（ノン　ヂーガ　ケリーア　ファラール　タント　コン　エレ　プレシザーヴァ　トラタール　ソブレ　ウン　アスント　インポルタンテ）
うんな事ですか。是非御話を致したかつたのです。重要の事件につき御相談せねばならなかつたのです。

b　Bom.　Já é muito tarde;　devo ir a casa.
（ボン　ジャ　エ　ムイト　タルデ　デヴォ　イル　ア　カーザ）
サー。モー大變遲くなつてます。家に歸らねばなりません。

a　Como!　Já vae?　Já me quer deixar?
（コモ　ジャ　ヴァイ　ジャ　メ　ケール　デイシャール）
何んです。モー御歸りですか。



# 講義

名詞の性　は男女の二性に分たる。男の性を有する物の名前は男性名詞にして女の性を有する物の名前は女性名詞である。生物の中にも男女何れともつかざるもの若くは全くの無生物の名前は意味又は語尾の如何によりて男性女性の區別を立て生物の如く取扱はれるのである。

意味により區別さるゝものは大略次の如し。

男性名詞　1. 男の性を有する生物の名前及び是等の生物の特有の情態或は役目を言ひ表はす名前。

例　Paulo, homem, menino, juiz, pae, rei(王).

2. 海。河。湖。沼。山。風。月の名前

例　o Pacifico(太平洋), os Andes, o Tieté(チエテ河), o janeiro(正月).

3. いろは文字。數字。樂符等の名

例　o b, o 4, os quatros.

女性名詞　1. 女性を有する物の名前及び女性物に特有の情態或は役目を名指す名詞

例　mulher, Maria, menina, costureira(裁縫女), rainha(女王)

2. 世界の五大洲。島。町村の名前

語尾により區別さるゝものは次の如し。

男性名詞

1. o で終る語　o livro, o quarto, o tempo.
2. ó で終る語　o cipó(葛), o paletó(上衣), o pó(粉).
3. u で終る語　o chapeu, o ceu, o pau(棒).
4. em, im, om, um で終る語　o bem(財産), o fim(目的), o som(音).
5. l で終る語　o cafezal, o sol, o sal(鹽).

◎東京電報（桑港近信）

十一月十一日

## ●聖上陛下京都帝國大學行幸

桃山御陵御參拜を兼ね陸軍大演習御統裁の爲め西下在らせらたる聖上陛下には十日京都大學に行幸ありたり

## ●東久邇宮邸に王男子御誕生

東久邇宮鳩彥王殿下妃明治天皇第九皇女なる聰子內親王殿下には昨夜第二王子御安產遊ばさる

附記　同邸には昨年五月六日第一王子盛厚殿下御誕生ありたり

## ●大隈侯視學官會議に大演說

東京に會議中なる全國各府縣の視學官に對し大隈老侯爵は新時代の敎育に就き大演說を爲せり

## ●光瑞氏還俗の爲め二名切腹す

西本願寺前法主大谷光瑞氏還俗したる爲め從來熱心に反對諫爭し居りたる和歌山オイコジ（電文不明）眞宗僧侶藤森鹽泉（電文不明）の兩名は遂に切腹して自殺せり

## ●明治選手重ねて早稻田を破る

明治大學對早稻田大學の野球試合は本日行はれ早稻田奮戰したるも重ねて明治選手の勝利に歸したり

◎ロンドン電報

## ●露國に於ける獨逸捕虜

モーニングポスト紙に達せる露都通信に據れば露戰線の各方面より到着せる獨逸捕虜兵多數に上り彼等は集合をなして委員會を設け自國の利益を保護せんと計畫しつゝあり彼等は己に露人と交易を始め種種の商品をもて食糧品と交換しつゝあり

（十九日電）

## ●話題となりし日本兵浦港上陸

日本兵ウラジオストック港に上陸せりとの報導は取消されたり

（十八日電）

## ●支那狀勢

北京來電に據れば同地駐劄聯合諸國の公使團は哈爾賓に於ける秩序の維持に關しては全然支那軍隊に信賴すべしと述べたり、支那政府は同地へ二個大隊派遣せり（十八日電）

### ●雜報

## ●伯國貿易の內容

政府筋の調査によれば本年一月以降十月末迄の貿易の內容次の如し

右の十ケ月間に於ける輸出總數量は百六十四萬四百二十七噸價額九十五萬三千百十コントスにして輸入總數量百六十六萬八千三百四十七噸價額六十六萬七千四百五十九コントスにして差引輸出超額二十八萬五千六百五十一コントスの好況を示せる由なるが今重要輸出品中數種の數量及び價額を詳記せんに冷肉五萬三千六百五十八噸價額四萬八千三百六コントス、米三萬三千八百八十四噸價額一萬七千九百五十五コントス、砂糖十萬九千九噸五萬五千四百三十七コントス、馬鈴薯三千三百十一噸五百四十一コントス、マンヂオカ粉一萬五千五百五十六噸四千三百十九コントス、豆七萬八千四百二十九噸三萬三千四百三十六コントン、玉蜀黍一萬九千二百六十七噸三千八十二コントスに上れり、尙此の外皮革、乾肉、滿俺、綿花、ゴム、ガヽオ、珈琲、カルナウバ臘、菓物、製油果實（唐胡麻其他）煙草、マテ茶、木材等の重要輸出品なり

尙ほ右に示せる數字に依りて其の單位價額を示せば各輸出品の平均單位價格は一キロに付き米五百レイス、砂糖五百九レイス、馬鈴薯六十四レイス、マンヂオカ粉二百七十七レイス、豆四百二十六レイス、玉蜀黍百五十九レイスに當る可し

最近五ケ年に於ける輸出總數並に價額左の如し

| | 噸數 | 噸數 |
|---|---|---|
| 一九一三年 | 一、〇四二、四二五 | 七六五、二六九 |
| 一九一四年 | 一、〇五八、〇八四 | 六〇四、七三〇 |
| 一九一五年 | 一、四三五、八六四 | 八〇一、一四四 |
| 一九一六年 | 一、四七九、九八〇 | 八四四、一六五 |
| 一九一七年 | 一、六四〇、四二七 | 九五三、一一〇 |

右比較表によれば本年の輸出は前年に比し數量十六萬四百四十七噸價額郵便條例に違反したる郵便物（例へば普通郵便中に現金を封入する等）を發送せざる樣注意することが必要である

▲右の事情にて本紙「伯刺西爾時報」の到着遲延又は不着の分あるやも計りがたければ本社は特に之等に向つて注意を拂ふが又購讀者諸君に於ても受取郵便局に丁寧に賴み置きを願ひたい

## ●若狹丸入港日

アンツーチス會社への入電に依ればエノス港安着昨二十日日本に向け同港出帆したる由

## ●本邦擊沈船數

歐洲戰爭開始以來敵潛水艇の爲に擊沈せられたる本邦船舶は八阪丸を手始めに最近の生駒丸に至る迄總數十八隻七萬五百八噸に達したるが之を細別すれば左し如し

| 船名 | 總噸數 | 所有者 |
|---|---|---|
| 八阪丸 | 一〇、九三二 | 日本郵船 |
| 大越丸 | 三、〇九一 | 中越滾船 |
| 小雜丸 | 三、〇四〇 | 村井滾船 |
| 天明丸 | 三、三二四 | 白洋滾船 |
| 建國丸 | 三、二二三 | 南洋滾船 |
| やすくに丸 | 四、九六二 | 山下滾船 |
| 永田丸 | 三、五一二 | 永田滾船 |
| 多喜丸 | 三、二〇八 | 松昌洋行 |
| 青島丸 | 二、五一〇 | 同 |
| 眞盛丸 | 二、八三二 | 厚田滾船 |
| 泰山丸 | 三、五六九 | 橋本滾船 |
| 澤丸 | 二、五三二 | 大澤滾船 |
| 宮崎丸 | 七、八九一 | 日本郵船 |
| 唐山丸 | 二、四二六 | 松昌洋行 |
| 第七雲海丸 | 二、一八三 | 中村精七 |
| 影島丸 | 四、五六六 | 枝光製鐵所 |
| 薩寄丸 | 三、七四六 | 帝國滾船 |
| 生駒丸 | 三、〇五七 | 大正滾船 |

## ●手紙發送に就て

▲去る十四日より實施となつた戒嚴中取扱郵便規則中に英佛西葡伊語以外の郵書は取扱はずとの規定があるので郵便局は日本字の郵書取扱を停止したが帝國公使及總領事は是が解禁について奔走盡力の結果十四日一日丈の停止にて其の後外國行きの分に對しては從前の通り何等の故障なく取扱ふことゝなりたるも

▲內地往復の郵書（日本文字）に就ては未だ何れとも解決つかず只郵便局員の手加減にて取扱ひ居るに過ぎざれば帝國公使は今尙聯邦政府に交涉中の由なるが多分之も遠からず良解決を見るに至るであらう

▲右の問題我々の有利に解決すると雖も戒嚴中の郵便物は檢閱係りの手に於て嚴重に檢閱され又其の中には解封せらるゝ分も少なからざれば海產に關する研究を爲すべく來伯の由

## ●在留證明出願者へ注意

大正七年度の徵集猶豫願上必要とする在留證明書の下附願は遠隔の伯國に在る者は特に注意して來る一月中に手續を爲し終るを良しとす、されど餘り急ぎ過ぎて證明手數料を送るのを忘れて願書のみを封入する者が多々あるとのこと是れでは總領事館も取扱ひ難しと係りの三隅氏が語つて居られたから出願者はかゝる粗漏なき樣注意すべし▲手數料は伯貨二ミル百レイス外に返信料百レイス又本邦へ轉送依賴の場合は更に二百レイスを添へて送ることを忘れてはならぬ。

## ●御斷はり

本紙第十八號は來る廿八日（金曜）に發行すべき筈なるも新年號發刊の都合上一月一日に繰下げ紙數を增し內容を整へ以て諸君に見へんとす希くば右事情を諒とし坤輿一轉鷄鳴曉を報するの時を待れんことを

## ●佐伯國次郎氏死去

久しく聖市近在ガリユーリョにありて農業に從事せられをりし佐伯國次郎氏は多年の過度勤勞に起因せるにや、とかく健康勝れざりしが去る十八日病勢俄に革まり遂に五十二歲を一期として鬼籍に入れり、夫人の嘆き察するに餘りあり、同氏は福島縣相馬郡小高町の產にして實に皇國第一回の渡航者たり、最初加藤順之介氏に從ひてヅーモン耕地に入れるが其後轉じて當時水野氏の計畫に係るリオ州マカエ植民地に赴き一時は家族全員悉く病魔の難に遭ひしも幸にして九死をのがれ再び聖州に歸り永くソロカバナ線イツに借地して棉花及玉葱の栽培を營まる、邦人にして玉葱栽培を試みしは同氏を以て嚆矢となす。越ねて大正四年八月頃前記ガリユーリョに土地を購入して剝苦勉勵今日に至れるなり、同氏が過去十餘年は悉く悲慘と猛奮の連續劇にして誠に後輩の爲めに道を開ける貴き犧牲の一つたり、因に昨年末頃不時の死を遂げたる宇佐見氏は同氏の甥たり。

## ●人事

所用を帶びて暫く當市に滯留中なりし山根寬市氏は一昨十九日ビリグイに向け歸らる▲三浦氏十八日田舍へ出動▲商用を以てビリグイ植民地より出聖せる雜貨店主高橋善之助氏は昨日歸植せるが同氏の談に依れば本年も昨年に劣らぬ豐作にて既に早豆の取り入れ最中なりと、因に同氏は廣く顧客に報ひん爲め年末を以て價格五百針の景品福引券附大賣出しをなす由▲瀧澤氏昨日歸聖


**GARAGE AUTO PARIZ**
Tel. cidade 77, Auto luxo, hora 10$
**貸自動車業**
業務懇切丁寧
一時間　拾弗
日本人諸君には特に二割引
同胞諸君の御愛顧を乞ふ
自動車番號　二〇八
電話　シデーデ　七七
ブラサ・ダ・レプブリカ
中村末熊

特許出願
**△トウミ（唐箕）賣出し**

一號　四十五弗
二號　百十弗
三號　貳百廿弗

CASA TOKIO
R. B. Itapetininga, 20
Tel. 3036-Central
" 1963-Cidade
**東京ザーカ**

本店　聖市バロン・ヂ・イタペチニンガ　二〇
支店　ラヂイラ・サンタ・エフイジエニヤ　二九
電話　三〇三六—セントラル
　　一九六三—シデーデ
郵函　一〇〇五

Alfaiataria YABE
Systema Americana
Um terno sobre medida, de 70$ a 140$
**純米國式**
最新流行形各種
脊廣一組金七十弗より
百四十弗迄
コンデデサルゼーダス街
四十六番
**矢部洋服店**
電話四五五九セントラル
R. Conde de Sarzedas 46, S. Paulo
Tel. 4559 Central

芳香美味
**竹印醬油**
一瓶一弗五百レース
聖市モッカ街五二六番
**大澤商店**
竹細工部、醬油釀造部
木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候
**R. da Mooca 526, S. Paulo**

**珈琲園コロノ及びカンナ受負者募集**
本耕地現在の珈琲樹數は新樹拾六萬本古樹四萬本にして猶大正七年度より新樹の植付けを始め以て此をも提供します抑も本耕地所有地の內一千有餘アルケールは大なる森林で漸次に之を切り開きカンナ及ミーリョの受負希望者にも提供します植民地に入る前に先づ豐富なる資力を充たす事が今日吾々の急務であります
本耕地には養豚業及砂糖及ビンガ製造所がありますのでカンナ及ミーリョは幾らでも買ひあげます
Magio Diniz Junqueira,
Fazenda Peroba,
Estação Orlandia.
Linha Mogyana
(R. Igrapava)
Estado de S. Paulo
右　福川爲然
御問合せは拙者或は本耕地日本人に知人あらばりの人に委しく申し越し下されたし

**日本金兩替**
紙幣金銀貨多少に拘はらず御取替可申上候
日本賣藥、生藥、大工道具類、土佐鋸類、種子物類販賣（全部日本品）
市內買集品
古サツク販賣開始仕候
上中下有之候間多少に拘はらず御注文被下度願上候
豆腐大豆、糯米、小豆等買入可申候
御照會の節は見本御添御一報願上候
ブラジル時報市內申込所
聖市コンデサルゼーダス街五一番
**木藤商會**
大澤醬油取次所
**R. C. Sarzedas 51 S. Paulo**

**德用醬油**
一瓶一ミル二百レイス
丸西醬油一手販賣
遠藤常八郎
Rua Conde de Sarzedas 65

◎
**生徒募集**
△葡語研究希望の士は來つて學べ。一週三時間
尙詳細は本校に御問合せあれ
**正則葡語學校**
校主　加藤順之介
聖市コンデ街八十七番

21 de Dezembro de 1917 No. 17

# Noticias do Brazil

大正六年十二月廿一日　金曜日　第拾七號

## 第十七席　宮本武藏と山田彌十郎御前試合

西の幕を絞つて出でたるは越中國の住人山田彌十郎此方は難波一刀齋の時に申上げましたが俗に盲目彌十郎といつて兩眼共に見ゑず北辰妙見の利益に依つて左の眼三尺四方朧月の如くに見ゑる彌十郎も鼠木綿の着類段小倉の馬乘袴十字に襷を掛け晒布を疊んで法師頭に鉢卷をなし八尺柄大越流の蒲公英槍を小脇に搔込み徐々吹上御庭前へ進み何れも將軍家光公へ默禮をいたして進んで參る三代樣御覽に相成つて　家「彥左衛門是れが最前出でたる難波一刀齋の義弟であるか　彥「御意にございます」羽賀井一心齋御前に居りますから　家「コレ〳〵淺右衛門宮本と彌十郎とは勝負何れにある」淺右衛門は　淺「御意にございます宮本は天下高名の二刀の先生併し勝負は何れとも言上は仕兼ねます左りながら流石の宮本先生も今日はお骨が折れませう何方といへば先づ十中の八九は宮本先生が負けだと淺右衛門は存じまする　家「ウーム一方は盲目であるが餘程の名人であるな　淺「御意にございます是れぞ君今日第一の勝負でございますから能く〳〵御會得あつてかゝる名人が試合を御覽遊ばせ他日又々御覽に相成らうと仰せられても二度とは見られざる日本一の勝負でございませうと淺右衛門は存じます」成程淺右衛門が言上の通り宮本と彌十郎の勝負又見やうといつて見られず今日第一の立合であります三代樣は淺右衛門に言はれ兩の瞼に簽を張つたる如く拳を握つて御見物左右の幕張の内に居る武藝者は是れぞ未曾有の勝負と片唾を呑んで見物いたして居る、さしもに二百六十餘大名數多の旗本其他數千の見物數へ難い程控へて居りまするが水を打つたるばかり森々として居る小笠原右近將監殿はお棧敷にあつて青竹の欄干を摑み潰すばかり半身乘出して御見物又宮本の一子八五郎勝負如何にと片唾を呑んで控へて居ります雙方位取に掛りまする宮本武藏は決して人を侮つた事のない萬何事も愼しんで居る先生對手は五體不具ながら無雙の名人盲目彌十郎を敵に受けたれば今日は武藤も一生懸命宮本も老年彌十郎も老年であります武藏心中に彌十郎に負けるのは苦しくないが汚ない負方をしたくないと思ひ又彌十郎は天下に高名の武藏に負けても我れは盲目差して構ひのなき身分併し何方といへば誰でも負けたいと思ふ者はありません武藏は左劍を一文字の星眼に附け右劍を眞向に振構へる是れを武藏の天地陰陽の構へといふ武藏の左劍は飽くまで敵へ突出して居るのは是れを拂ひ落しに來いと言はぬばかりに出して居る左劍は客易な事では拂ひ落せません、右より左が七分利いた方でされば二刀を使ふのであります右の腕に二天流左の腕に政名流是を合せて二刀流といふ能く武藏の流名を眞面二刀流だの或は圓く明かと書きこ傳へるなどゝ書いて圓明二傳流などゝ云つて己れと理屈を附けて讀む講釋師もありますが決して武藏はそんな流名は使ひませんヂリ、ツと進んで行く彌十郎は八尺柄の蒲公英槍腰を落して充分に身構へたるが槍を上段にヂリ〳〵ツと附けて身構へるマア彌十郎は強い者武藏程の先生を敵に受けた槍が上段に取れるものではありません武藏の面上へ槍の蒲公英がピツタリ附いて居ります是れる上段に槍を取るといふ講釋師の上段に槍を取るのは手許が上つて穗先の下つて居る是を上段八雙に取るといふ恐らく槍を心得た方に聞ゑたら甚だ耻入る譯であります上段と下段と間違へて居れば此位お目出度いことはありません槍を上段に構へて居れば直ぐ敵が槍の下を潜つて手許へ這入つて來るヤリは辨ずるまでもなく長き得物でありますから敵に手許へ這入られるとアガキが附きませんされば成丈け敵を近附けぬやうにするのがヤリの術であります武藏は彌十郎の構へを見て矢聲を掛けて居るが打を出しません彌十郎も矢聲を掛けて居るが隙がないと見ゑて突掛らない今の時間で三十分ばかり相互ひに綿つ緩めつ氣合を掛けて居る内に山田彌十郎は武藏に如何なる呼吸の狂ひがあつたるか大喝一聲武藏の左の劍を卷落さんとエイヤツと搦んで來る左知つたりと武藏持てる左劍で彌十郎のヤリのけらくびを拂ひながら振構へたる右劍を上げ飛込まんとするを心得たりと彌十郎のヤリはいつしか手許に繰込み叫んで二度目に繰出すヤリは中段となつて武藏の胸板へと突掛ける南無三武藏は究かれたかと思ひきや十字に木劍を組んで刎上げる武藏も非凡な腕前互ひに飛違へ〳〵陰陽の秘術を盡し打合ひまする事其數凡三百六十本に及びました。

時に見て居る旗本には餘り早業に飛違へて居るので武藏と彌十郎が何方に居るか分らなくなります位屢々打合せて居たがエイツと彌十郎左を踏出す途端に武藏の持つた左劍をエイガラリツとモロに吹上の庭前へ卷落す是れまで武藏が左劍を落されたる事は凡そ二度であります右を落されても武藏は負けになりませんが左を落されると是れで武藏の負けてございます利腕の劍を卷落されたゆゑオイ武藏が左劍を落されたと大勢が見て居る間に彌十郎は武藏の左劍を卷落したと思ふと流星の如くに繰出すヤリ武藏の腰の邊りを一突と見ゑたるに武藏政名エイツと一聲氣合を打ち彌十郎の繰出すヤリのけらくびを木劍にて一打に切るゝれは宜いが對手の武藏の姿が失なつて終つた彌十郎は蒲公英のないヤリを持つて吹上の御庭前で右の膝頭を大地に突き右の足に反を打つてヤリを腰車の上段に立つて體を圍つて控つて居る大勢は驚ろいて武藏の行方が分らない何處へ武藏が行つたかと膽を潰した三代公も驚ろいて矢聲と共に武藏が見ゑなくなつたと心配をして居ると彌十郎大音を揚げて　彌「宮本先生勝負は五分にて候何れに勝負はござらん人々宮本先生のお姿は向ふの東屋の屋根にお在でなさると彌十郎の大聲に人々氣が附いて見ると遙か向ふの東屋の屋根は武藏が木劍を提げて諸足に立つて居る大勢驚ろいてどうだいマア盲目の彌十郎に見ゑて明かな目玉を持つて居る我々に武藏の行衛が分らない何と云ふ鈍眼てあらうか彌十郎の見ゑない目は大したものだと人々驚ろいて居る三代樣は膝を打つて御感心遊ばされ勝負は何れにあるとお行司の樣子を見ると飛驒守の扇は眞直に上つて居るシテ見ると引分勝負感心であると家光公のお賞めになり御前に控へて居る淺右衛門にお向ひあつて　家「コレ〳〵淺右衛門勝負は何れであらうか」とお尋ねになると　淺「御意にございます勝負は彌十郎が勝でございます併し彌十郎は小笠原家へ卑下して宮本先生と勝負は互角と聲を掛けたのでございます　家「ウム何處が彌十郎の勝だ、　淺「御意にございます前に武藏と彌十郎の陰陽のヤリ太刀を合せました事凡そ三百六十本に及びました其内武藏の氣力が脚か疲れて氣合の狂つた所を彌十郎に左劍を卷落されました透さず繰出すヤリを武藏先生右劍を上げてヤリのけらくびを一尺ばから切落しました武藏先生も非凡な腕でございます木劍でヤリの柄を切折りました併し武藏の袴の裙を御覽遊ばせ彌十郎の蒲公英ヤリで縫止てございます」三代樣御覽なさると武藏の竪縞小倉の袴の裙を蒲公英のヤリで突通して一尺ばかりの切がブラ下つて居る三代樣は驚いて恐しい腕前だと思召す　淺「前に武藏が左劍を落され是れで勝負は大概分つて居りますが武藏が彌十郎のヤリを切つたのも誠に美事な腕でありますこゝで勝負は互角でございます併しながら武藏先生の體を逃たゞけ武藏殿負けでございます尋常なら逃げる場合はございません。

## 婦人欄

### ●佳人一生の誤り

▲寫眞の姿に結構して
—罪は女の虛榮にあらん—

北米かのと近信に依ると過般沙都へ入港した布哇丸の船員は先航八月初めに船中に於て起つた寫眞結婚の悲喜劇を物語つて居るが之は女の虛榮の誡めともなりますから、茲に掲載します。談に依れば「八月始め

▲布哇丸が　タコマに着いた時石田お幸(三三)といふ美人が下船した、と五十歳餘りの農夫姿の醜男がホテルの若者數名を連れて出迎へた、お幸は「妾の夫は何處に居るので妾は寫眞で結婚を約束した者です」と訊いた、醜男は莞爾々々しながら「婚約したのは私です、私があなたの夫なのです」といふ、お幸は腹立し氣に「いゑ、私の夫はこの方です」と携へてゐた寫眞を見せた、寫眞の表は

▲眉目秀麗　貴公子とも見ゑる人なのである「寫眞は何でもあなたと婚約したのは私に違ひない」と醜がいふ「欺かれたのだ」とお幸は始めて心附いた踵を返すと逃げるやうにして布哇丸の船室に歸つて泣き伏してゐた、するとホテルの若者の多勢來てすかしたり赫したりしてお幸を下船させ搬ぶやうにしてホテルに拉し去つた。お幸は岡山縣の人

▲高等女學校　を卒へた女だが虛榮心強く成金で若い美男でなければ夫に持たぬと云て人が勸める親が勸める良緣を斷つてゐた或時知人が來ての話に米國に渡つて奮鬪の結果今はボートランドの大農園主となり散歩に出るにも自働車土地では交際社會の王と呼ばれてゐる青年が内地から夫人を娶りたいといつて搜してゐるとの事、お幸は

▲見ぬ戀にあこがれ　早速手紙を飛ばしてその青年の寫眞を請求した、間もなく着いたのを見ると想像以上の美男である美男で富豪、お幸は理想を現實する時が來た夫妻自働車を驅り行く街の兩側から美くしい花束雨や礫と降り注ぐ結婚の日を夢みて早速婚約をし

▲多額の調度料　と費用とが來る多くの親戚や知人に見送られて神戸から布哇丸に便乘して行つたのであつた——彼女の夢急ち破れて絶ゑ入るばかりの悲嘆を私は見たがその後の彼女の運命は何なつたか——と船員はつぎ足した。

告示

今般當舘に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を屆出相成たし

一、原籍姓名
一、土地の所在地及最近停車場名
一、土地の面積及買入地價
一、地價全部拂込濟の上地券所有の有無
一、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日幷に拂込濟金額

右告示す

大正六年九月

在サンパウロ市
帝國總領事舘
Caixa Postal 1167
S. PAULO.

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUSEN KAISHA :: OSAKA SHOSEN KAISHA

大阪商船會社定期船
○しあとる丸
十一月三十日神戸港發
二月上旬サントス港着

日本郵船會社臨時船
○若狹丸
十一月四日神戸出帆
十二月廿八日サントス着

御用の方は左記代理店へ御照會ありたし
アンツーネス、ドス、サントス會社
(Tel. No. 340) Caixa Postal 237,
Rua Libero Badaro No. 93-95
S. PAULO.